

令和 6 年度第 3 回 学びあい育ちあい推進審議会定例会要点録

令和 6 年 7 月 29 日（月）

出席委員 学校教育関係代表

委 員	久 保 明 彦
社会教育の関係者	
委 員	布 施 栄 子
委 員	小 野 和 歌 子
学識経験者	
会 長	長 島 剛
公民館利用者代表	
委 員	西 山 規 子
公募市民	
委 員	倉 品 み ゆ き
多摩市図書館協議会	
委 員	秋 澤 友 香 里
文化財保護審議会	
委 員	横 倉 敏 郎

出席職員	教 育 部 長	小 野 澤 史
	文化・生涯学習推進課長	垣 内 敬 太
	社会教育・文化財担当課長	齊 藤 義 照
	公 民 館 長	伊 藤 麻 衣 子
	図 書 館 長	渡 邊 哲 也
	教 育 協 働 担 当 課 長	野 原 敏 正

欠席委員 田中副会長・細田委員

(開会時刻：14時00分)

議事録署名委員：西山委員

議事次第・配布資料

[報告事項]

1 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について	【資料 1】
2 「国登録有形文化財保存活用計画」策定方針について	【資料 2】
3 公民館事業進捗状況について	【資料 3】
4 令和5年度公民館事業報告書について	【資料 4】
5 教育部所管施設におけるキャッシュレス決済の導入について	【資料 5】
6 令和5年度地域学校協働活動の取り組みについて	【資料 6】

[協議事項]

1 多摩市使用料等審議会委員の推薦について	【資料 7】
2 第4次多摩市生涯学習推進計画の令和5年度内部評価について	【資料 8】
3 第二次多摩市教育振興プランの更新に関する意見について	【資料 9】
4 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について	【資料 10】

[連絡事項]

1 多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催について	【資料 11】
-------------------------------	---------

会長 :	ただいまの出席委員は、8名である。定足数に達していることから令和6年度第3回多摩市学びあい育ちあい推進審議会定例会を開始する。会議録署名委員は西山委員にお願いする。
会長 :	—（新任委員の自己紹介）— 小野委員
会長 :	まず、資料の確認を事務局よりお願いする。
事務局 :	—（社会教育・文化財担当課長より資料確認）—
会長 :	本日机上配付している「会長あいさつ」について説明する。まずは、「第1回審議会定例会での共有事項」であるが、次の4つを共有させていただく。 ①職員及び推進審議会委員が郊外型の公民館や図書館の歴史、先進事例を学び、よりよい社会教育を振興する。できれば、視察やゲスト講演を行いたい。 ②説明資料を見直す。前年比や他施設比較等を行い、検討しやすい資料作りを心掛け、意見交換にできるだけ時間を使いたい。 ③コスト意識をしっかりと持ってほしい。 ④住民はもちろん、学校や企業、近隣の自治体などとの連携を模索することによってコストを下げ効果的にやっていただきたい。 以降は、今回の資料を見て思ったことを挙げている。後で調べてみるのも良いかと思 い書かせていただいた。先日、昭島市の図書館「アキシマエンシス」へ行ったが、小

学校跡地活用として、市民図書館、郷土資料室、教育センター、子ども家庭支援センター、男女共同参画センターなどが連携した複合施設となっていた。郷土資料館が図書館の横にあり、とても行きやすいものになっていた。多摩市の図書館は進んでいると思っていたが、どこの図書館も同じように努力していると感じた。

次に、「特徴のある蔵書にすることから次の可能性を模索する」であるが、神奈川県立川崎図書館は、全国的にもめずらしく、会社史・経済団体史・労働組合史を多く所蔵している。多摩市立中央図書館も、企業の社史を集めていきたいとの話しであったため、多摩大学で重複しているものを寄贈、また三鷹市にある出版・印刷会社である㈱文伸で作っている社史等を譲っていただける段取りをつけた。企業と連携する良いきっかけになると思うので、ぜひ進めていただきたい。

次に、「10年後、どうなっているのか？」であるが、10年後公民館がどうなっているのかを考えている。少子化の影響や様々なことが起きた時に大丈夫であるかどうかを調べていたところ、平成29年10月2日付けの文部科学省生涯学習政策局の「公民館の現状と課題」を見つけた。ここには、現状として「地方の行財政改革の進展に伴う社会教育行政の変化」があると書いてある。社会教育主事の削減、公民館の統廃合など、厳しい行財政事情の中で社会教育行政を担う体制が脆弱化している。まちづくり、高齢者福祉など多様な行政部局が関係施策を展開してくる。また、生涯学習社会の理念の浸透や行政の効率化のための人材育成の重要性の高まりなどにより、様々な行政部局でも地域の人づくりの重要性が認識される。NPO、大学、企業など多様なプレーヤーが出現し、従来行政が担ってきた社会教育振興の分野に多様な主体が参画してきていると書いてある。公民館がまちづくりの中心となる事例としては、新居浜市泉川公民館の取組みが掲載されている。さらに、毎年文部科学省により優良公民館を表彰する制度もあり、昨年度最優秀館となったのが、北海道網走市オホツク・文化交流センターで「情報技術を活用した地域学の取り組み」であった。工夫しているところもあるので、他の地域で行っている先進事例として参考にあげた。続いて、「公民館のしあさって・プロジェクト」であるが、ホームページによると公民館という社会ストックをもっと活用するにはどうしたら良いかを考えたものとある。日本には公民館が現在、約1万3000館あり、市区町村が設置した公立公民館の数だ。これに、自治会などが設置した自治公民館を加えると全国8万館を超えるともいわれる。しかし、そのすべてが十分に活用されているとは言い難い。このような問題意識から立ち上げられたのが「公民館のしあさって・プロジェクト」である。問い合わせをして詳しく伺ったところ、エジプトに日本の公民館を輸出するプロジェクトをきっかけに、日本の公民館を見直した方が良いのではないかと気づき、現在活動を行っているとのことであった。

また、「デジタル田園都市国家構想基本方針（令和4年6月7日閣議決定）」は、以前には地方創生といっていたが、現在の日本の政策ではデジタル田園都市国家構想基本方針となっている。公民館・図書館などの社会教育施設の活用を促すことにより、地域の取組にリアルな交流とデジタルの相乗効果が生まれ、課題解決に向けたコミュニティ活動が活発化することで、誰一人として取り残されない、デジタル社会の

	<p>実現を図っていく。また、公民館・図書館などの社会教育施設において、地域の教育力向上に向けて、ICTなどの新しい技術を活用しつつ、多様な主体と連携、協働しながら魅力的な教育活動を展開し、ひとつくり、地域づくりを行う取組を促進していくと書いてある。来年度に向けて、多摩市としても国や都、市長会などの予算活用の検討も必要なのではないかと思っている。</p> <p>最後に、「目的に合わせた事業の実施」であるが、八王子市、武蔵野市は「お父さんお帰りなさいパーティー」、NPOなどの地域活動を目指す方を対象とした講座「はちおうじ市民塾」、府中市民活動センターでは「ソーシャルビジネスプランコンテスト」を行っている。この学びあい育ちあい推進審議会の範囲を超えているところもあるかもしれないが、方向性は似ているかと思いここにあげさせていただいた。</p> <p>以上のことを見頭の片隅に置いていただきながら、本日の定例会を進めていただきたい。</p>
--	---

[報告事項]

1 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について・・・【資料 1】

会長 :	報告事項1「令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	報告事項1「令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について」を報告する。資料1をご覧いただきたい。7月9日に町田市役所で連絡協議会第1回理事会が開催された。報告案件5件、協議事項3件であった。裏面は、ブロックごとの役員等の輪番についての表となる。第3ブロックの多摩市は、今年度がブロック幹事となり、今後当面の間は会長や副会長、監査の役がまわってくることはない。資料1の2枚目をご覧いただきたい。「令和6年度の都市社連協ブロック研修会の実施計画」が決定された。第3ブロックの会場は多摩市となり、10月5日(土)に研修会を実施する。資料1の3枚目のとおり「令和6年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会実施要項」が決定された。交流大会・全体研修会は、12月14日(土)に町田市市民フォーラムホールで開催される。また、開催通知が届いたら参加の有無等を確認させていただくので、よろしくお願いしたい。

2 「国登録有形文化財保存活用計画」策定方針について・・・【資料 2】

会長 :	報告事項2「「国登録有形文化財保存活用計画」策定方針について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	報告事項2「「国登録有形文化財保存活用計画」策定方針について」を報告する。資料2-1の裏面をご覧いただきたい。唐木田の鶴牧西公園の一角にある旧川井家住宅主屋と土蔵を多摩市に寄贈いただいた。こちらは、令和2年に国の登録有形文化財に登録されている。旧川井家住宅等の隣には市指定天然記念物「シダレザクラ」があり、旧川井家住宅等とシダレザクラが形成する文化的な景観は、ニュータウン

	開発による急激な都市化の中で、多摩ニュータウンエリアで市内に唯一残された「多摩の原風景」とと言われており、この「多摩の原風景」を適切に保存し次世代に継承するとともに、国登録有形文化財の活用を図ることを目的として、今年度から2ヶ年かけて保存活用計画を策定していく。資料2-1の3ページに保存活用計画の記載事項を示している。基本的な事項では、文化財の価値、概要を確認し、具体的な措置内容としては、保存の現状と課題、活用の現状と課題、保存管理に関する事項、環境保全に関する事項、防災・防犯に関する事項、活用に関する事項、保護に関する諸手続を定めていく。国登録有形文化財の国庫補助を利用しながら活用する際に改修工事が必要になってくる場合もある。旧川井家住宅等の保存活用計画を策定するために、庁内の関係課長による策定委員会を設けたたき台を作成し、その後、有識者会議にて識見を有する者等の意見を反映していく。委員構成は4ページのとおり。学育審からも委員がメンバーとなっている。資料2-2は、国登録有形文化財保存活用計画策定に向けたスケジュールとなっている。学育審でも適宜報告させていただき、今後進めていきたい。
委 員 :	有識者会議のメンバーとなっているが、この近くで生まれ育っておりこの住宅にも実際にに入ったことがある。そのような視点から意見を述べていきたいと思っている。

- 3 公民館事業進捗状況について・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 3】
- 4 令和5年度公民館事業報告書について・・・・・・・・・・・・ 【資料 4】
- 5 教育部所管施設におけるキャッシュレス決済の導入について・・・・ 【資料 5】

会 長 :	報告事項3「公民館事業進捗状況について」、報告事項4「令和5年度公民館事業報告書について」及び報告事項5「教育部所管施設におけるキャッシュレス決済の導入について」を一括して事務局より説明をお願いしたい。
公 民 館 長 :	資料3「令和6年度公民館事業進捗状況について」を説明する。小学生等体験講座では、夏休み期間に地域の人材や大学生を講師として、学校や家庭では体験することが難しい専門的な講座や、親子や多世代が交流できる講座を行い、経験や知識・視野を広めるきっかけとしての事業を実施していく。本日机上に2枚のチラシを配付している。「東大CASTサイエンスショー」は、これまで永山公民館のみで行ってきたが、今年度からは永山公民館、関戸公民館それぞれで実施する。7月16日からの申込受付けであったが、両館とも即日に定員いっぱいとなり、人気のある事業となっている。テレ朝出前講座「テレビ番組の裏側～アナウンサー体験もしてみよう！～」は、テレビ朝日の無料提供による出前講座となる。子ども向けのアナウンサー体験であるが、こちらは多くの応募が来ている。この他にも「エコベル作り」や「パネルシアター」など夏休みの子どもを中心とした事業を予定している。家庭教育学級・家庭教育講座は、市内の学校や児童館、幼稚園、保育園の希望に合わせ、各施設を会場として地域の方を招き講座を行うものである。年々各施設からの希望は増えている。本年度も予算として10枠設けたが、すべて埋まっている状況であ

	<p>る。今後も各施設と調整を図り、希望するテーマに沿った事業を展開していきたい。地球大学院では、昨年まで「関戸地球大学院」としていたが、今年度は市全地域を対象に学びを提供するために永山公民館でも実施していくこととし、「関戸」を外し「地球大学院」に名称を改めた。今年度も6大学が参加予定であるが、今年度は2部制とし、1部は平和と人権をテーマに2大学で講演いただき、2部では4大学の専門分野の講座を実施する。永山フェスティバルでは、昨年より多い出店希望があった。また、今年は永山駅が鉄道開通して50周年となることから、小田急や京王の鉄道会社も参加いただく予定である。今後、民間事業者にも声をかけ進めていく。VITAふれあいまつりは、昨年は8月に実施していたが、猛暑により熱中症になった方がいたことから、今年度は内容も含めて再検討し2月に実施することになった。その他の連携事業として、日野市・多摩の「多様な学びの場構築広域連携事業」では、ひきこもりや不登校の子ども達を対象とした事業を進めているほか、都民寄席についても東京都に申請した。先ほど説明したテレビ朝日出前講座や東京都の子供デジタル体験にも申請をし、子供や市民に興味を持ってもらえるものを予算をかけずに実施しているところである。</p>
会長：	家庭教育学級・家庭教育講座の10枠が、すぐに埋まるとのことであったが、なぜすぐいっぱいになるのか。
公民館長：	学校等では、保護者や子供たちへ講座等の学びの予算を持っていないことが多い、こういった機会に保護者や地域の方への講座を提供することが年々増えている。
会長：	永山フェスティバルで、民間事業者に出てもらう理由はなにか。
公民館長：	現在、永山フェスティバルは多摩市と新都市センター開発とヒューマックスを中心となって行っているが、予算的に厳しい状況でもある。今後は、協賛金も含めて民間業者にも協力をお願いしていく。昨今、企業も地域貢献という意味もあり、協力し合いながら実施できれば良いと思っている。
会長：	日野市・多摩市の広域連携事業の話しがあったが、多摩市と稲城市、多摩市と八王子市の連携にはならないのか。
公民館長：	今回の日野市・多摩の「多様な学びの場構築広域連携事業」は、助成金の交付が日野市と多摩市での事業となる。今後の展開としては考えられると思う。ただし、子どもたちの参加があまりに広域であるときには検討が必要かと考える。
公民館長：	続いて、資料4「令和5年度公民館事業報告書について」を説明する。令和5年度に実施した事業の報告をまとめたものである。「0歳からのクラシック♪」は、コロナ禍では中止していたが、昨年度は実施することができた。120人と多くの参加があり、音楽を聴きながら踊ったり歌ったりと保護者も楽しんで参加できる事業となり、音楽の学びを提供することができた。小学生体験講座（夏休み編）からこども対象体験講座（秋）「親子で作る和菓子講座」、こども対象体験講座（春休み編）など、子ども達に向けての事業を実施した。関戸公民館では、公民館が知られていないこともあるので、子育て支援を含めて子どもや親世代に知ってもらえるような事業を進めていきたいと考えている。「子育て安心講座親子で学ぶ！スマホを持つ

	前に知りておきたいトラブル回避法！」は、経済観光課が市内の中小企業の支援で行った事業で、経済観光課、女性センター、公民館の3課が連携して行ったものである。こちらは、フィジタル的なものよりメンタル的にトラブル回避するための親子参加の講座となっている。多摩市公民館50周年記念事業として、気象予報士の井田寛子氏をお招きし、「近年の異常気象と気候変動」の講座を開催した。昨今の災害に関するメディアから見た環境問題を講演していただいたが、72人の参加があり、アンケート結果からも好評な事業となった。「伝承文化教室はじめての茶の湯」では、多摩市茶道連盟の協力を得て気軽に茶道を学んでもらう機会を提供した。これから始めていきたいとの意見もあり、今後も地域につなげていければと考えている。59ページの市民活動支援事業は、実行委員会形式での事業となる。高齢化などの問題はあるが、大学生を実行委員会に入れる等工夫をしながら、今後も継続していきたい。
委 員 :	参加人数の少ない事業がいくつかある。42ページスマートの親子講座は、2組4人の参加となっていて、とてももったいない。周知までの日数はあったのか。
公 民 館 長 :	スマホ講座に関しては、周知が直前になってしまったことが反省点である。他にも参加が少ない事業に関しては、興味をもってもらえなかつたことや周知が足りなかつたことが考えられる。中には、そもそも定員が少ないものもある。周知方法については、今後検討していきたいと考えている。
委 員 :	市からLINEで情報が毎日のように届く。このようなものを使っているのか。
公 民 館 長 :	今年度は、SNSにも力を入れている。基本的には、Xで流すと公式LINEでも流れるようになっている。着信側も例えば、「子育て」にチェックを入れると子育ての事業等のお知らせは、届くようなので、発信側もしっかりと「テーマ」や「ターゲット」等の検証をして発信していきたい。
委 員 :	保育室開放を6月に2回見学に行ったが、誰もおらず部屋も暗く活動している様子がなかった。コロナ禍で減少したものが、元に戻りつつあるとのことだが、現在利用者はいるのか。
公 民 館 長 :	報告書では少しずつ増えている印象を受けている。関戸公民館では、保育室を利用する子育てのグループがいくつかできている。地域性はあるが、永山公民館においても周知の仕方を工夫し、興味をもってもらえる仕掛けづくりをしていきたい。
会 長 :	参加人数が少ない事業がいくつか見受けられ、心配である。NISA講座などは、すでに民間でもやっているが、公民館で実施する必要はあるのだろうか。参加は10人であるが、まとめでは「今後も実施していきたい」とのコメントになっている。「今後見直していきたい」のコメントが適切なのではないか。
公 民 館 長 :	NISA講座は、定員が10人であった。予約申し込みの電話は多かった。企業の地域貢献もあり、企業側がNISA講座をやらしてほしいとの依頼もある。公民館でどう活かすかを考えたうえで、実施の仕方やルールを定めて、市民に人気のある講座は今後も進めていきたいと考えている。
委 員 :	事前予約と当日参加の線引きはどのようにしているのか。また、基本的に無料だと

	思うが、有料にして大胆なものを計画するのも良いのではないか。公民館が認知されていないとのことだが、子ども向けを実施し、保護者や若い世代にも公民館の活動を認知してもらう働きかけが大切だと思う。
公 民 館 長：	材料費などを有料とする事業もあるが、基本的には社会教育の学びを広く提供するという観点から無料となっており、誰でも参加できることを心がけている。参加の方法は、定員枠の大きさや事業内容によって、事前申し込みか当日の先着順かを決めている。昨年は、オンライン申請をメインにしてきたが、オンライン申請の方が当日キャンセルの割合が多くなっている。直接や電話申し込みの場合には、7・8割の出席だが、オンライン申請の事業の場合には、6割程度出席で4割ほどがキャンセルとなっている。この傾向も踏まえて、今後検討していきたいと考えている。
公 民 館 長：	次に、資料5「教育部所管施設におけるキャッシュレス決済の導入について」を説明する。市民の利便性向上のため、公民館、図書館及び教育振興課社会教育・文化財担当が所管する施設の使用料等の支払方法として、キャッシュレス決済を導入する。対象施設は、教育振興課社会教育・文化財担当では古民家や旧多摩聖蹟記念館、永山公民館、関戸公民館、中央図書館、関戸図書館となり、施設使用料が対象となる。なお、公民館については、施設内にある消費生活センターや女性センター諸室も含まれる。導入は、令和6年10月1日からの予定である。今後は、施設予約システムからクレジットを使って決済できるようになる。窓口払いの場合には、現金払いの他に、クレジット、電子マネー、QRコード支払いができるようになる。決済には、事務手数料がかかり、各会社3%程度の手数料となる。今後のスケジュールとしては、7月に市公式ホームページ、9月5日号のたま広報にてキャッシュレス決済導入の市民向けお知らせを掲載予定である。その後、10月1日から教育部施設におけるキャッシュレス決済は開始予定となる。

6 令和5年度地域学校協働活動の取り組みについて・・・・・・・・・・・・ 【資料 6】

会 長：	報告事項6「令和5年度地域学校協働活動の取り組みについて」を事務局より説明をお願いしたい。
教育協働担当課長：	資料6「令和5年度地域学校協働活動の取り組みについて」を説明する。資料6-1は、地域教育力支援コーディネーター1名が学校への人材派遣や紹介をした実績となる。2地域学校協働活動推進事業では、令和5年度参加ボランティア人数が延べ3,399人となった。地域未来塾の実施状況は、資料のとおりである。会議・研修としては、1月に地域学校協働活動推進委員会を開催し、学びあい育ちあい推進審議会からも3名出席いただき、地域学校協働活動の取り組みを発表した。今年度も開催予定であるので、よろしくお願いしたい。
会 長：	参加ボランティアの人数は、かなり増えているようだ。
教育協働担当課長：	コロナ明けで、活動に参加される方が増えてきていると思う。

[協議事項]

1 多摩市使用料等審議会委員の推薦について・・・・・・・・・・・・ 【資料 7】

会長 :	協議事項 1 「多摩市使用料等審議会委員の推薦について」事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	資料 7 「多摩市使用料等審議会委員の推薦について」をご覧いただきたい。資料 7 のとおり多摩市長より学びあい育ちあい推進審議会へ多摩市使用料等審議会委員の推薦について依頼がきている。市では「公共施設の使用料設定にあたっての基本方針」の見直しについて審議いただくため、多摩市使用料等審議会を開催し、意見をいただきながら見直しを進めていく。多摩市使用料等審議会の目的は裏面の条例第1条のとおり。学識経験者 5 人以内、市民 5 人内で組織され、任期は 1 年となる。この審議会では、公民館などの社会教育施設を利用している団体の代表の立場からの参画をいただきたいとのことで、学びあい育ちあい推進審議会の委員のうち、公民館利用者を代表する委員 1 名を市民委員としてご推薦いただきたいとの依頼である。
会長 :	公民館利用者を代表する委員を推薦することに意見はあるか。 — 意見なし・全員異議なし — 公民館利用者を代表する委員を推薦することに決定する。
委員 :	事前に他施設の使用料も調べて、公民館利用者としての立場から参加できればと思う。

2 第4次多摩市生涯学習推進計画の令和5年度内部評価について・・・・・・・・ 【資料 8】

会長 :	協議事項 2 「第4次多摩市生涯学習推進計画の令和5年度内部評価について」を事務局より説明をお願いしたい。
文化・生涯学習推進課長 :	資料8-1 「第4次多摩市生涯学習推進計画の令和5年度内部評価について」を説明する。第4次多摩市生涯学習推進計画は、令和3年度からスタートし、令和4年度より前年度の事業実績について内部評価を行い、令和5年度には内部評価に加え、2年に一度の外部評価を行った。令和6年度は評価年度の3年目となり、内部評価のみ行う。内部評価の評価手順について、本年5月に令和5年度の関連事業の実績確認のため、各所管へ調査依頼を行った。その際、指標だけでなく、実績確認結果も踏まえて、実績に対して考察、今後の方向性、方向性の理由と今後の課題について回答を依頼した。回答取りまとめ後、事務局で資料8-2 「令和5年度実績と考察」及び資料8-3 「令和5年度 内部評価総評」を作成した。「令和5年度実績と考察」の作成にあたっては、各所管から回答いただいた令和5年度の実績を11の推進項目ごとに分けて見やすくした。また、「令和5年度内部評価総評」については、各所管からの調査回答結果を踏まえ作成したものである。今後の予定としては、本日学びあい育ちあい推進審議会にて内部評価案の説明をさせていただき、8月13日までに意見聴取をいただきたい。その意見を踏まえ、8月には生涯学習推進本部会議にて内部評価の協議・決定をしていく。9月には、内部評

価を府内へ報告し、10月には「学びあい育ちあい推進審議会」にて、いただいた意見をどう反映したかや質問の回答について報告していく予定である。

次に、資料8-2「令和5年度実績と考察」について説明する。各担当課へ調査をし、まとめたものである。前回と変わった部分としては、指標アウトプットと初期アウトカムに「進捗」という項目が増えたことである。この項目は、前年度実績と比較し、10%以上の上昇は「○」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記していて、視覚的に分かりやすいようにしている。また、「今後の方向性」欄を新設し、矢印で示している。下欄には、推進項目ごとに指標の推移をまとめて表している。推進項目1での指標推移でいうと、アウトプット、初期アウトカムともに上昇しているとみている。令和5年度についてはコロナ明けということもあり、他の推進項目についてもほとんどが上昇しているが、推進項目6「ボランティア・市民活動」については、アウトプット部分が下降している。また、推進項目8「誰もが学べる環境づくり」では、アウトプットが現状維持という結果である。推進項目11項目、個別施策24項目について、各個別の実績と考察、今後の方向性、指標目標の推移を整理したものである。資料8-3は、資料8-2に基づいて、令和5年度内部評価総評として分析した内容となる。第4次多摩市生涯学習推進計画は、令和3年度からの10ヵ年計画として策定され、ここで計画期間の3年が経過している。令和5年度は、毎年行う内部評価に加え、2年に一度の外部の評価者による評価を初めて実施した。また、評価を実施する中で、より実効性のある評価となるよう、評価方法や表現の仕方について、さまざまな意見が寄せられたところである。さらに、昨年策定された第六次多摩市総合計画では、分野横断的に取り組むべき3つの重点テーマとして「環境との共生」「健幸まちづくりの推進」「活力・にぎわいの創出」が掲げられた。生涯学習分野においても、これら3つのテーマを意識した取り組みに傾注していくべきと考えている。令和5年度の振り返りとしては、新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類に移行したこと、これまで制限されていた各種イベントや事業が通常どおり開催され、各施設における利用者数も、コロナ禍以前の状況に戻りつつあるという結果となった。また、コロナ禍で、動画配信の活用が浸透するなど、オンラインでの情報発信の選択肢が増え、多くの情報を市民にわかりやすく伝えることやオンライン上のイベントへのアクセスが容易となった。今後は、オンラインとリアル、それぞれを場面に応じて使い分けたり、組み合わせるほか、アーカイブ発信を実施することなどが、課題となっていくと思われる。

今回、令和5年度の内部評価を実施した中で、新たに4事業が追加され、126事業となっている。追加された事業の1つである「防災訓練職員派遣」については、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に伴う防災意識の高まりにより、今後、派遣回数が増えることが想定される。また、パルテノン多摩での「市民団体等活動支援事業」は、令和5年度から本格稼働し、新たな支援制度の定着と普及に期待が寄せられる事業となっている。昨年度の市民の生涯学習の支援に向けた大きな出来事の一つとしては、多摩市立中央図書館のオープンが挙げられる。祝日開館や開館

時間を見直し、図書館を利用できる機会を広げた。地域の活動においては、担い手の高齢化が課題であり、今後は、オンライン対応やSNSによる事業展開をはじめとした若い世代が参加しやすい環境整備に力をいれていくことが求められている中で、「自治会・管理組合活動」では、令和5年度の試行事業を経て、電子回覧板等の支援アプリの実証実験に取り組んでいく予定である。また、「わがまち学習講座」では、関係部署が連携しながら、市民自らが地域に興味をもち、課題解決等による「あらたな担い手」につながる講座を開設していく。令和5年度には、「わがまち学習講座」の卒業生が公民館の「地域貢献講座」で高校生たちが企画から運営まで主体的に取り組んだことも見受けられた。指標による視点からは、初期アウトカムの向上が顕著なものとして、個別施策「⑩多世代交流の場づくりの推進」があげられる。開館2年目の「多摩市立市民活動・交流センター」では、施設の認知度が高まってきたことや指定管理者による子育て交流室のほかカフェ等の交流スペースの運営等の自主事業の実施により、利用者数が増加しただけでなく、子どもから大人まで多世代の人達に利用されており、今後も民間活力により多世代のつながりを創出していくことが期待される。また、個別施策「⑫企業連携による学習・教育の推進」では、「東京ヴェルディとの協働事業」において、東京ヴェルディが2024シーズンよりJ1に昇格したことで市民の関心が高まり、そこで昇格に向けた機運醸成事業や開幕戦に向けた応援の事業を実施したこと、参加者数が増加した。「読売巨人軍との協働事業」においては、選手や指導者が市内の幼稚園、保育園、小学校を訪問するなど様々な連携事業を行うことで、市民にスポーツへの興味関心を持ってもらい、市民のスポーツ意識が高まるきっかけ作りを行った。こうした企業との連携により、多様な学びの輪を広げることができた。一方、指標の低下が見られた事業としては、個別施策「⑯様々な状況に応じた学習・生活のサポート」の「日本語・外国語セミナー」があげられる。クラスの運営については通常時に戻ったが、コロナが5類に移行し人流が回復した結果、生徒の帰国などで教室に参加する回数が減少したことなどが理由と考えられる。また、個別施策「⑨市民企画(提案)型講座・事業の拡充」の「パルテノン多摩市民学芸員」では、令和6年度も新たな市民学芸員の育成を予定しているが、若年層の取り込みが課題となっているところもある。しかし、取り組み内容や企画、発信力で効果を上げており、今後も、新しいミュージアムと地域をつなげるプレイヤーの育成等に努めていきたい。最後に、共通する課題であるが、令和5年度は、ウィズコロナからアフターコロナへ転換し、施設利用者数が大きく伸び、多くの事業でコロナ禍前の成果水準に戻りつつある。この中、新たな事業の開始や、既存事業におけるオンライン参加環境の充実や民間連携などの工夫をすることで「学びあいつむぐ“健幸”なまち」にまた一步近づいた1年であったといえる。一方で、通常時に戻りつつあることから、これから先、指標が伸び悩むことが予測される。特に情報発信は共通する課題である。情報発信をする際には、動画や写真、イラスト素材を活用しつつ、SNSやローカルメディアなどの様々な媒体を通じて、継続的、効果的に市民に伝えていく工夫をしていくことが必要であると考えている。また、高齢化が確実に進行しているため、

	担い手不足や担い手の世代交代も課題である。地域人材の発掘・育成を組織目標としている協創推進室、文化・生涯学習推進課、公民館などが中心となり、若い世代に向けた魅力ある情報発信を行うなど、市民の関心や理解度をこれまで以上に高め、次代の人材の確保に注力していくことも必要であると考えている。
委 員 :	個別施策のところで、アウトプットが増えたらアウトカムが前年よりも上がるのには当たり前で、そうでなければならないと思うが、例えば個別施策①の⑧農産物応援サイトでは、令和4年度が128、令和5年度が118であったが、初期アウトカムが令和4年度49,787、令和5年度78,472となっている。アウトプットが少なくなつたにもかかわらず、アウトカムの数値が増えたことは、とても良いことだと思う。情報発信がなかなか難しいとの話もあったが、なぜ上手くいったのか、なぜ数値が上昇したのかを分析することで、もっと情報発信のアイデアが出てくると思う。
文化・生涯学習推進課長 :	今後、所管課への調査票でも上手くいった場合の原因分析を行うなど、上手くいったことが反映できるように努めていきたい。
会 長 :	8月13日までに意見をとのことであるが、どのように回答すれば良いか。
文化・生涯学習推進課長 :	資料8-2は、所管課からの分析結果となるので、資料8-3を重点的にご覧いただき、意見を頂戴したい。委員の皆さまの感覚として、ここは違和感がある、このような観点で振り返った方が良い、このような記述であった方が良いなどの意見をいただきたい。
会 長 :	資料8-3の「令和5年度内部評価総評」を確認いただき、意見があれば8月13日(火)までに事務局へお願いしたい。

3 第二次多摩市教育振興プランの更新に関する意見について・・・・・・・・ 【資料 9】

会 長 :	協議事項3「第二次多摩市教育振興プランの更新に関する意見について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	資料9「第二次多摩市教育振興プランの更新に関する意見について」を説明する。第二次多摩市教育振興プランの更新について、委員の皆さまからいただいた意見を資料としてまとめさせていただいた。第二次多摩市教育振興プランは、令和2年からの10年間の中間見直しとなる。皆さまからいただいた提案内容を、第二次多摩市教育振興プランの本編で該当する項目ごとに記載をするかたちでまとめさせていただいた。ご確認いただき、提案いただいた意見が反映されていないところがあればご指摘いただきたい。このようなかたちで、学びあい育ちあい推進審議会からの意見として教育長へ提出させていただくがよろしいか。
会 長 :	皆さまの意見を項目ごとにまとめたかたちとなっているが、各自内容をご確認いただきたい。7月末までが提出期限なので、何か修正点があれば事務局に連絡願いたい。無ければ、こちらを提出することとする。

4 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について・・・・・ 【資料10】

会長 :	協議事項4「東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	資料10「東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について」を説明する。本日は、資料10の「本日の獲得目標」に示しているとおり、第3ブロック研修テーマの決定、スケジュールの再確認、役割分担や開催通知について決定させていただきたい。前回の定例会で説明したものと内容的には変更はない。日時は、10月5日(土)14時から16時10分までの予定である。会場は、多摩市立中央図書館活動室。この内容で第3ブロックの各市に案内をしていきたい。裏面の役割分担について、開会挨拶は会長、閉会挨拶は副会長にお願いしたい。その他の司会、受付、会場案内・誘導の役割について、本日決めさせていただきたい。また、報告事項1でも説明したが、12月14日(土)に都市社連協交流大会が町田市民フォーラムホールで開催される。ここで第3ブロック研修会の報告発表を行う。また、今後のスケジュールについては、本日内容を最終決定し、7月31日付けで第3ブロックの各市に開催通知を送付する予定である。各市からの参加者希望を8月16日までとし、参加者を確定していく予定である。

【10月5日(土)第3ブロック研修会】

開会挨拶：会長

閉会挨拶：副会長

司会(1名)：1名決定

受付(3名)：3名決定

会場案内・誘導(3～4名)：4名決定

【12月14日(土)都市社連協交流大会】

研修会実施報告発表(1～3名)：会長

[連絡事項]

1 多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催について・・・・・ 【資料11】

会長 :	連絡事項1「多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催について」事務局より説明をお願いしたい。
図書館長 :	資料11「多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催について」を説明する。多摩市立中央図書館は、多摩中央公園内に令和5年7月1日に開館し、1周年を迎えた。開館記念イベントは、図書館主催イベントだけでなく、市民の方から企画を募集し、イベント決定会議で開催を決定したイベントを市民協働イベントとして開催していく。イベントは、資料11の一覧のとおりとなる。すでに終了してい

	<p>るイベントは網掛けで表示している。図書館主催事業では、「読書リレーマラソン」として、7月1日～31日に各市立図書館で本を借り、中央図書館で貸出レシートを提示して引換券をもらうとココリア多摩センターがお得に利用いただけるイベントを開催している。7月11日時点で709枚を配付している。「開館1周年記念ブックカバー配布」は、7月6日に開催し、多摩市立図書館全館で、本を借りた方に記念ブックカバーを配布した。各館先着30個であったが即日終了した。「真鍋先生の恐竜教室 in 図書館～恐竜博士にキミもなろう！～」では、国立科学博物館で恐竜の研究をしている真鍋先生に恐竜の話をしていただいた。小学生を対象として7月15日に開催したが、定員30名のところ167名の申し込みがあり、当日の参加は保護者含めて49名の参加とかなり人気のあるイベントとなった。7月17日・19日の「図書館に地球あらわる！惑星体感 Dagik Earth」では、球体に宇宙から見た地球の姿を映しだす「Dagik Earth」を設置し、両日50名位の参加があった。7月20日開催の「おうちでDagik ワークショップ&天文学者に聞く宇宙のハナシ」では、中学生を対象として、天文学のプロから天文学とは何か、天文学者になるにはどうしたらいいかのお話をしていただき、19名の申し込みと当日参加を含め27名の参加となった。「祝1周年！図書館でジャズライブを楽しもう！」では、8月11日に中央大学モダンジャズ研究会OBメンバーが、中央図書館でジャズライブを、「音と楽しむおはなし会」では、8月24日にギターとアコーディオンを使った生演奏付きのおはなし会を予定している。次に、市民の方との協働イベントであるが、7月26日・8月21日に「夏休みの宿題おたすけ隊」として、東寺方図書館で、読書感想文・自由研究・英語多読などの相談に乗る。「ひらめきと身体でつくる空想の世界」では、自由な発想で思いついた動きを繋げていくワークショップを7月21日に開催し、定員10名のところ5件の申し込みで実施した。7月27日に多摩市立図書館の将来の姿について5分以内で発表し、発表者・来場者で語り合うライブラリートーク「未来ビジョン！市民のための図書館の未来を語ろう！」を開催し、発表者の申し込みが8名、当日20名ほどの参加があった。「みんなで読もう！みんなで聞こう！夏」では8月3日に朗読会を、「学校図書館への支援を考える市民ワークショップ～学校図書館を知ろう～」では、8月31日にこれからの学校図書館についてグループで考えるワークショップを、「みんなで仕上げる！読書推薦文」では、8月31日に課題図書を読んで、本の推薦文をグループで考えるワークショップを行う予定である。</p>
会長：	これで、本日の予定はすべて終了した。この他に報告はあるか。
図書館長：	冒頭で会長から話があった図書館のことについて、資料はないが現状の報告をさせていただきたい。「特徴ある蔵書にすることから次の可能性を模索する」ということで、神奈川県立川崎図書館でも産業技術関係資料を集めている状況がある。多摩市でも社史など企業情報を集めていくと、事業者支援や近隣の学生への支援につながっていくのではないかとの話を会長からもいただいているところである。多摩市としても、多摩市立図書館本館再整備基本計画や多摩市立中央図書館管理運営方針ではビジネス支援の必要性について記載している。そういう中で、令和4年に図

	書館から事業所へ文書を出して企業の社史やカタログなど資料を提供いただきたいと依頼したところ、201冊のパンフレットやカタログをお寄せいただいた。これらを多摩中央図書館の1階に「多摩市の会社」という棚を作り掲出し、周辺にはビジネス書籍も置いている。しかし、まだ社史は少ない状況であるところ、会長より多摩大学と㈱文伸をご紹介いただき、重複したものを図書館に寄贈する話をいただき、社史のリストを頂戴したところである。残念ながら、このリストの中には多摩市の会社は見当たらなかった。図書館としては、まずは多摩市内の企業からビジネスに関する資料を直接お会いするなどして集めていきたいと考えている。その後、多摩市内の企業だけでは資料数が揃わないということがあれば、周辺の近隣市に広げていきたいと考えている。
会長：	ただ今話しがあったように、引き続き継続していく。
委員：	県立川崎図書館で産業技術関係資料を集めていることであるが、川崎という土地柄で集めやすいのかと思った。多摩市でも大小いろいろな企業があるので、大きさなどに拘らずいろいろな資料を集めてもらえると、子ども達の将来につながると思う。
図書館長：	川崎は県立図書館であるので、市立図書館との違いもある。専門職もいるので相談をしながら、多摩市としてできることをやっていきたい。
社会教育・文化財担当課長：	次回の定例会は、10月21日(月)14時からとなるが、その前の10月5日(土)に第3ブロック研修会が開催される。10月5日(土)12時30分に中央図書館での集合となるので、よろしくお願ひしたい。後日、10月5日の集合場所、集合時間、台本等はメール及び郵便で送付するので、ご確認いただきたい。
会長：	以上で、本日の予定は全て終了した。

(2時間00分)

(閉会時刻16時00分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和　　年　　月　　日

会長

委員